

計画（素案）の修正箇所一覧表

番号	ページ	新	旧	備考	委員意見
1	1 ほか	注釈を追記	—	巻末にもアイウエオ順に追記	○
2	2	1.4×10 ¹⁹ J（ジュール）を追記	—	国全体の動向を具体的に追記	
3	3 ほか	図 2-1 等、図を拡大	—		○
4	6	（表 2-2、図 2-4）を追記	—	対応する図表番号を追記	○
5	6	中位の導入可能量予測では、平成 42（2030）年に発電電力量に対する再生可能エネルギー電気の割合は 33%（平成 25 年度発電電力量 9397 億 kWh をもとに算定）に達するとされています。（表 2-3、図 2-5）	中位の導入可能量予測では、2030 年に発電電力量に対する再生可能エネルギー電気の割合は 33%に達するとされています。（表 2-3、図 2-5）	33%の算定根拠を追記	○
6	6 ほか	（表 2-3、図 2-5）	（表 2-2、図 2-4）	図表番号の誤りを修正	○
7	10	（ア）太陽光・太陽熱 太陽光発電は、太陽の光エネルギーを太陽電池で直接電気に変換する発電方式です。家庭用の数 kW からメガソーラーと言われる 1,000kW 以上の大規模発電用設備まで導入が広がっています。	（ア）太陽光・太陽熱 太陽光発電は、太陽の光エネルギーを太陽電池で直接電気に変換する発電方式です。家庭用から大規模発電用設備まで導入が広がっています。	表現を修正	○
8	10	（エ）地熱・地中熱 地熱とは地下にある熱のことで、 <u>利用の仕方から見ると、火山に近い場所にある高温のエネルギーを発電等に利用する地熱と、足もとにある恒温のエネルギーを温熱・冷熱として利用する地中熱に分類されます。</u> 地熱発電は、地下に蓄えられた熱エネルギーを蒸気や熱水などで取り出し、タービンを回して発電します。使用した蒸気は、水にして還元井で地下に戻されます。 地中熱とは、比較的浅い地盤中に存在する安定した熱エネルギーで、冷暖房の熱源などに利用されています。このような熱利用の形態は、地中熱以外にも、地下水、河川水、下水などからも得ることができます。	（エ）地熱・地中熱 地熱とは、地下にある熱のことで、地熱発電は、地下に蓄えられた熱エネルギーを蒸気や熱水などで取り出し、タービンを回して発電します。使用した蒸気は、水にして還元井で地下に戻されます。 地中熱とは、比較的浅い地盤中に存在する安定した熱エネルギーで、冷暖房の熱源などに利用されています。このような熱利用の形態は、地中熱以外にも、地下水、河川水、下水などからも得ることができます。	地熱と地中熱の違いがわかりやすくなるよう追記	○
9	11	（キ）コージェネレーションシステム 家庭用燃料電池（エネファーム）もこのシステムに含まれます。	（キ）コージェネレーションシステム —	家庭用燃料電池の説明を追記	○
10	12	（表 2-4）地熱 世界 10 位	世界 8 位	情報を更新	
11	12	（出典 3）世界の地熱発電（独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC））	—	出典を追記	
12	13	<u>太陽エネルギー（太陽光、太陽熱）</u>	<u>太陽エネルギー（太陽光）、太陽エネルギー（太陽熱）</u>	表現を修正	○
13	14	<u>TJ（テラジュール）</u>	<u>TJ</u>	説明を追記	
14	15	（5）他政令指定都市の再生可能エネルギー等の導入計画・支援等	—	本編から移動し、巻末に掲載	○
15	22	（キ） <u>太陽光発電</u> ビジネスマッチング事業	（キ）ビジネスマッチング事業	具体的な名称に修正	○
16	23	（削除）	表 3-5 廃棄物発電・廃棄物熱利用（北谷津清掃工場）	施設が稼働を停止したため	○
17	25	市内の導入状況に旧計画の総括を記入。	—		○
18	25	表 3-6 表中、考え方の標記修正 2020 年に旧計画の基準年度である平成 22（2010）年度の 10 倍	2020 年に現状の 10 倍	時点がわかるように修正	○
19	25	表 3-6 コジェネ（住宅）の現状値 1,604kW	1,332 kW	時点修正	○
20	26	21,460,121GJ	10,151,940GJ	表と整合させた	○
21	26	2,073,554MWh	929,710 MWh	表と整合させた	○
22	26	表 3-7	表 3-6	表番号修正	○
23	26	表 3-7 設置場所等の修正 ①民間事業所の利用可能量を修正	—	項目追加等	○

		<p>②野立てソーラー（荒地）の項目、利用可能量を追加</p> <p>②農地（耕作放棄地）から農地利用へ変更、利用可能量を修正</p> <p>③風力エネルギーを風力発電、水力エネルギーを水力発電へ表現を修正</p> <p>④地中熱発電、水力発電の脚注を追加</p>			
24	28	<p>表 4-1 千葉市の再生可能エネルギー等の導入目標</p> <p>①農地（耕作放棄地）から農地利用へ変更、目標値を設定</p> <p>②メガソーラーを野立てソーラーへ変更、目標値を設定</p> <p>③上記修正を踏まえ、太陽光発電導入目標合計値を修正</p> <p>④住宅の太陽熱利用の導入目標値の修正</p> <p>⑤上記修正を踏まえ、太陽熱利用の導入目標合計値を修正</p>	—	項目修正	○
25	28	<p>表 4-2 種類ごとの導入量の内訳</p> <p>表 4-1 と整合を図り修正</p>	—	項目修正	○
26	29	<p>表 4-3 市域における再生可能エネルギー等の比率</p> <p>再エネ比率 2030 年度 7.8%、2050 年度 14.7%で表を追加</p>	—	表を追記	○
27	29	<p>・民間施設等への再生可能エネルギー等導入検討の原則義務化</p> <p><u>建築物の ZEB 化を推進するため、条例等の整備を行う中で、市内の民間施設等の新設又は更新の際に再生可能エネルギー等の導入検討の原則義務化を図ります。</u></p>	<p>・民間施設等への再生可能エネルギー等導入検討の原則義務化</p> <p>市内の民間施設等の新設又は更新の際、再生可能エネルギー等の導入検討について、原則義務化を図ります。</p>	ZEB 化の観点を追記	○
28	30	<p>・中小企業向けの融資・助成制度</p> <p><u>中小企業の環境改善に資する設備（再生可能エネルギー関連設備を含む。）を導入するための資金を、長期かつ固定・低金利（併せて利子補給を実施）で調達できるよう融資や助成の制度を整備します。</u></p>	<p>中小企業向けの融資・助成制度</p> <p><u>中小企業に対し、市が環境改善に資すると認める設備（再生可能エネルギー関連設備を含む。）を導入するための資金を、長期かつ固定・低金利（併せて利子補給を実施）で調達できるよう融資や助成の制度を整備します。</u></p>	表現修正	
29	31	<p>・再生可能エネルギー等の利用を前提とした街づくり</p> <p><u>建築物の ZEB 化の推進等による地球温暖化対策に資する低炭素都市づくり、エネルギー供給の多重化や蓄熱槽の活用等による災害に強いまちづくり、スマートコミュニティの形成等を検討します。</u></p>	<p>・再生可能エネルギー等の利用を前提とした街づくり</p> <p>地球温暖化対策に資する低炭素都市づくり、エネルギー供給の多重化や蓄熱槽の活用等による災害に強いまちづくり、スマートコミュニティの形成等を検討します。</p>	ZEB 化の観点を追記	○
30	31	<p>・下水道資源の有効活用</p> <p>市の下水道事業において、<u>下水汚泥に由来するエネルギー（消化ガス、炭化燃料等）等、下水道資源の有効利用の推進を図ります。</u></p> <p>また、<u>下水熱ポテンシャルマップ</u>を作成し、下水熱利用を促進します。</p>	<p>・下水汚泥等の有効活用</p> <p>市の下水道事業において、<u>下水汚泥等のエネルギー（消化ガス）の利用の推進を図ります。</u></p> <p>また、<u>下水熱利用マップ</u>を作成し、下水熱利用を促進します。</p>	炭化燃料を追記	○
31	32	ロードマップを追記	—		○
32	33	<p>（ア）再生可能エネルギー等の出力変動</p> <p>（略）エネルギーが必要な時に安定的に供給できる仕組みづくりを<u>段階的に</u>進めていく必要があります。</p>	<p>（ア）再生可能エネルギー等の出力変動</p> <p>（略）エネルギーが必要な時に安定的に供給できる仕組みづくりを進めていく必要があります。</p>	表現を修正	○
33	34	<p>（イ）再生可能エネルギー等を運ぶ送電線の対応</p> <p>（略）今後は、<u>安定供給を前提に、既存の系統を活かしながら効率的な設備形成が求められます。また、エネルギーの地産地消等の自立分散型エネルギーシステムの活用が求められます。</u></p>	<p>（イ）再生可能エネルギー等を運ぶ送電線の対応</p> <p>（略）今後は、<u>系統の強化やエネルギーの地産地消等の自立分散型エネルギーシステムへの転換が求められます。</u></p>	表現を修正	○
34	34	<p>（オ）再生可能エネルギー等の利用量の増大をもたらすライフスタイルの醸成</p> <p>（略）なお、住宅用太陽光発電に係る平成 31（2019）年以降の固定価格買取制度の買い取り期間終了後の対応については留意する必要があります。</p>	—	追記	○
35	34	<p>【苦情の発生】</p> <p>・小型風力やエネファームを設置したが、音が気になるケース</p>	<p>【苦情の発生】</p> <p>・小型風力を設置したが、音が気になるケース</p>	追記	○

36	35	【設備導入の失敗】 ・建築物、樹木、電柱等の影響で太陽光発電の発電量が減少するケース	【設備導入の失敗】 電柱の影の影響で太陽光による発電量が <u>想定</u> の2割減少したケース	表現を修正	○
37	35	【設備導入の失敗】 再生可能エネルギー設備や省エネ設備を導入したものの、 <u>頻繁にメンテナンスを実施する必要がある等、ランニングコストが想定を大幅に上回る</u> ケース	【設備導入の失敗】 再生可能エネルギー設備や省エネ設備を導入したものの、コストが想定を大幅に上回るケース	表現を修正	○
38	35	(削除)	【設備導入の失敗】 新規導入した設備が、他の設備の稼働に悪影響を与えるケース	具体性を欠く記述のため削除	○
39	35	資料編として (1)用語解説 (2)各政令指定都市の計画等 を追加。	—	—	○